



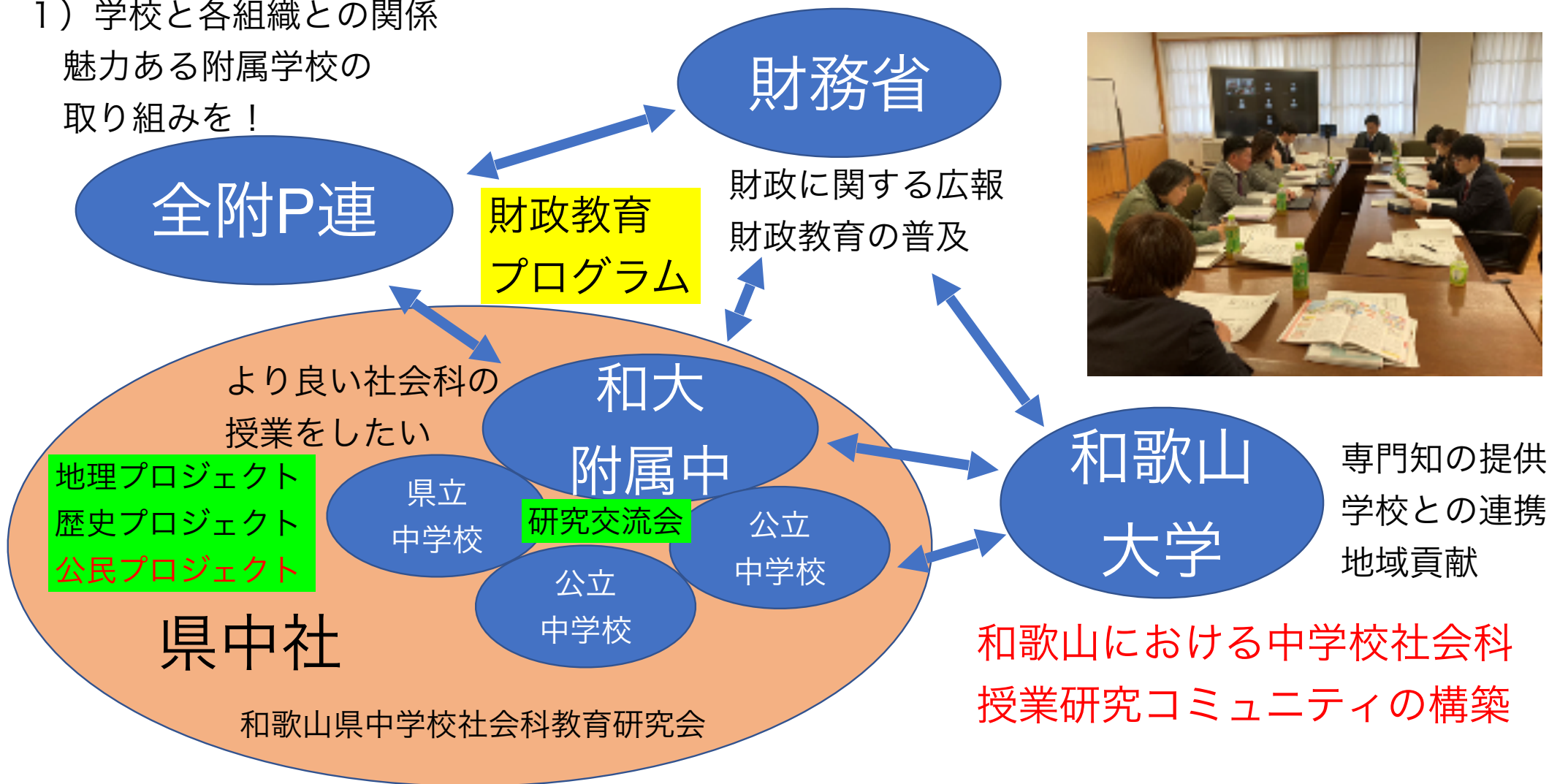
財務省と連携した附属中学校社会科における 「財政教育プログラム」の取り組みについて

和歌山大学教育学部附属中学校

(1) 「附属中学校×公立中学校×大学×財務省」連携プロジェクト (2024～2025)

1) 学校と各組織との関係

魅力ある附属学校の
取り組みを！



(1) 「附属中学校×公立中学校×大学×財務省」連携プロジェクト (2024～2025)

2) プロジェクトメンバー

世話人：和歌山大学教育学部附属中学校社会科教員

研究員：公立中学校社会科教員

研究協力者：和歌山大学教育学部社会科教育教授、財務省担当者等

コーディネーター1名

3) プロジェクトの取り組み (2024年) ※研修は県中社の夏季研修会・冬季研修会として設定

8月9日 「財政教育プログラム」の紹介 これまでの成果と課題 (財務省担当者)

「主権者教育に向けて、知っておきたい日本の財政の現状とこれから」 (財務省担当者)

プロジェクトのスタートアップ会議 (全員)

9月20日 財務省作成資料の読み合わせ、質問の準備、教材研究 (研究員)

10月25日 オンラインによる質問事項への回答 (研究員、大学、財務省)

11月29日、12月20日 教材研究 (研究員)

12月27日 ワークショップ「より良い未来のために、今できることを考えよう」 (大本)

授業案についての検討 (全員／オンライン併用のハイブリッド会議)



(1) 「附属中学校×公立中学校×大学×財務省」連携プロジェクト (2024～2025)

4) 授業の概要 (5時間扱い)

◆第1時～第3時 (各校の生徒の実態に合わせて教材を作成)

財政の役割、公共サービスと社会保障制度、税の種類とその公正性、
歳出の費目と課題、財政赤字の現状、財政政策の国際比較 など

◆共通資料「アメリカ・日本・スウェーデン3カ国の主な社会保障制度の比較」

◆共通課題「日本の社会保障のあり方について、次のA～Dの意見・立場から

最も良いと思うものを1つ選び、自分の考えをまとめよう。」

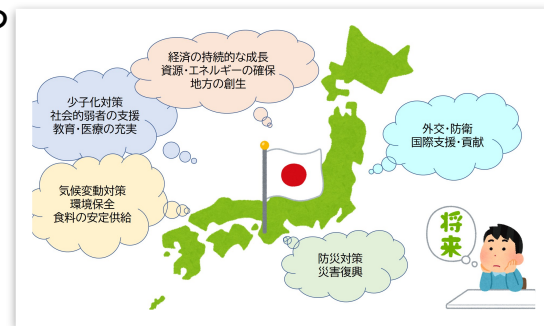
A：北欧の国々のように、現在よりも社会保障を充実させ、そのために国民の負担も大きくすべき。

B：現在の社会保障の水準を維持し、そのために国民の負担が増えるのはやむを得ない。

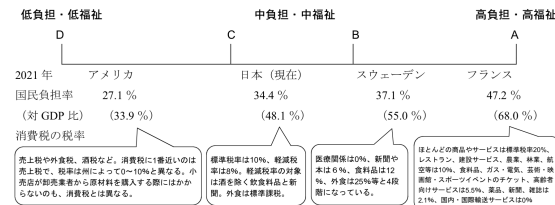
C：現在の国民の負担の水準を維持し、そのために社会保障を現在よりもしぼりこむことはやむを得ない。

D：アメリカなどの国のように現在より国民の負担を少なくし、そのために社会保障をしぼりこむべき。

アメリカ (連邦・州・地方) 社会保障制度の概要		スウェーデン (全国) 社会保障制度の概要
社会保障制度は、連邦政府、州政府、地方自治体によって構成されている。主な制度として、社会保険、失業保険、医療保険、年金などが挙げられる。	社会保険は、雇用主と従業員が共同で負担する。失業保険は、失業した際に支給される。医療保険は、国民全員が加入する。年金は、高齢者に支給される。	社会保障制度は、国民全員が加入する。主な制度として、社会保険、失業保険、医療保険、年金などが挙げられる。
社会保険は、雇用主と従業員が共同で負担する。失業保険は、失業した際に支給される。医療保険は、国民全員が加入する。年金は、高齢者に支給される。	社会保険は、雇用主と従業員が共同で負担する。失業保険は、失業した際に支給される。医療保険は、国民全員が加入する。年金は、高齢者に支給される。	社会保険は、雇用主と従業員が共同で負担する。失業保険は、失業した際に支給される。医療保険は、国民全員が加入する。年金は、高齢者に支給される。



◆あなたの考えでは、どのあたりに位置するでしょうか？数直線の上に○を付けよう。



A, Bを選んだ人：その財源はどうする？どこから、どれだけ確保するのか？
C, Dを選んだ人：社会保障や公共サービスの何をどこまでしぼりこむのか？その代わりに国民はどうするのか？

(1) 「附属中学校×公立中学校×大学×財務省」連携プロジェクト (2024～2025)

◆第4・5時 ワークショップ

「より良い未来のために、今できることを考えよう」

➤2050年（中学校3年生の生徒が40歳）の未来がどうなっている？

（良い未来、悪い未来、どちらもあり得る／創造的に考える。）

➤未来から振り返って、いま何をすべきか？

（バックワードデザイン）

➤自分たちが願う暮らしを実現しながらも、持続可能な日本にするために「市民」「行政」「企業」はそれぞれどのような役割を果たすべきか？

➤単元の振り返り

（ワークショップ後、個人で選択したA～Dについて改めて考える。）



(2) 「附属中学校×公立中学校×大学×財務省」連携プロジェクトの総括

- ◆フューチャーデザインの視点で、望ましい未来の姿を思い描く。

- 魅力的なワークショップだが、第1～3時との接続に難しさあり

- ◆「望ましい未来の姿」を実現するために、現在（2025年）何をしておくべきか（財政をどうすべきか）を「政府」「企業」「市民」それぞれの視点で考える。

- ◆第3時までには自分が考えていた「日本のあるべき財政」「政府・企業・市民の役割」を見なおす。

- 生徒が社会のリアルに即して考えられる事例をいかに提供するかによって差あり
授業記録の分析を通して、授業改善をはかる必要

財務省との授業記録（本校教員が撮影した動画をもとに作成・分析し、財務省に提供）

公立中学校における授業記録（大学教員が撮影した動画をもとに分析→学会で発表予定）

- ◆学校を超えて、社会科教師が対話的・協働的に授業づくりを行う授業研究コミュニティの構築。

附属学校の教員が主体的に活動→地域の授業づくり、授業研究の取り組みの活性化